

「鉄道地震工学研究センター 第8回 アニュアルミーティング」を開催しました

2021年12月10日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、2014年度より鉄道地震工学研究センターの役割や活動を紹介し、鉄道総研の研究開発や情報配信について幅広く意見交換する場として、アニュアルミーティングを開催しています。本年は12月1日にWeb形式で開催し、鉄道事業者をはじめ官公庁、一般企業から173名（外部パネリスト5名を含む）にご参加頂きましたのでお知らせします。

【ミーティングの概要】

今回のミーティングでは、「耐震補強の現在と今後の展望」をテーマに、耐震補強における要求性能の設定や、一般的な施工法の適用が困難な箇所への対応など、耐震補強において直面している諸課題をあらためて整理・共有するとともに、今後の方向性に関して討議を行いました。

ミーティングではまず、鉄道地震工学研究センター長の開会挨拶の後、鉄道地震工学研究センター報告として、鉄道総研の最新の研究成果3件についての報告を行いました。

次に、ミーティングのテーマである「耐震補強の現在と今後の展望」に関して、国土交通省関東運輸局水野課長から耐震補強に関する施策の変遷と効果についての説明を頂き、鉄道事業者からは耐震補強に関する現状と課題として各社における諸課題や新技術導入に係る報告を頂きました。また、鉄道総研からは耐震補強を支援する研究開発として3件の報告を行いました。

続いて、発表者等9人による討議が行われ、今後の効果的な耐震設計のためには、既設構造物に対する知見や被災履歴の活用、性能設計法の体系化、問題解決のための技術開発等が重要であるとの意識の共有が図られました。

最後に、鉄道地震工学研究センター長が、今後の継続的な議論の実施、これからの仕組みや体系の実現を目指すことを述べて、閉会しました。

記

1. 開催日時：2021年12月1日（水） 14時00分から16時30分

2. 開催形式：Web形式

3. プログラム（以下、敬称略）

■開催挨拶

鉄道地震工学研究センター長 山本 俊六

■鉄道地震工学研究センター報告

「複数の海底地震計情報を用いたマグニチュードの推定手法」

鉄道地震工学研究センター 地震解析研究室 副主任研究員 野田 俊太

「地震時地点リスク低減のための地盤調査計画アルゴリズム」

鉄道地震工学研究センター 地震動力学研究室 研究員 月岡 桂吾

「構造物・地震情報を活用した運転規制基準値設定法」

鉄道地震工学研究センター 地震応答制御研究室 主任研究員 坂井 公俊

■耐震補強の現在と今後の展望

(1) 趣旨説明

鉄道地震工学研究センター 地震応答制御研究室長 豊岡 亮洋

(2) 「耐震補強に関する施策について」

国土交通省 関東運輸局 鉄道部技術・防災第一課 課長 水野 寿洋

(3) 耐震補強の現場から

東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター 耐震土構造 PT 課長 島津 優
四国旅客鉄道株式会社 工務部工事課 担当課長 宇野 匡和
東京地下鉄株式会社 鉄道本部工務部 土木課 課長 藤岡 崇晃

(4) 耐震補強を支援する研究開発

「地盤・基礎・土構造等の耐震対策技術」

鉄道地震工学研究センター 地震動力学研究室 副主任研究員 土井 達也

「橋りょう・高架橋等の耐震対策技術」

鉄道地震工学研究センター 地震応答制御研究室 副主任研究員 和田 一範

「耐震補強のための全線評価」

鉄道地震工学研究センター 地震動力学研究室長 井澤 淳

(5) 耐震補強に関するアンケート調査

(6) 今後の耐震設計に関する討議

参加者：水野 寿洋、熊谷 健一、島津 優、宇野 匡和、藤岡 崇晃
山本 俊六、岩田 直泰、井澤 淳

モデレータ：豊岡 亮洋

■閉会挨拶

鉄道地震工学研究センター長

山本 俊六



耐震補強の現在と今後の展望に関する討議（全景）



耐震補強の現在と今後の展望 - 趣旨説明（地震応答制御研究室 豊岡室長）